小林 真以子　氏の学位審査結果の要旨

主査：塩島　一朗
副査：小林　拓也、中邨　智之

脱落膜は妊娠の終結に伴い胎盤とともに剥脱する子宮内膜組織の一部であり、子宮内膜の間質細胞が増殖・分化する結果、受精卵の着床を許容する状態に変化することを脱落膜化という。子宮内膜間質細胞が脱落膜化する過程では卵巣由来のエストロゲンとプロゲステロンが重要であることが知られているが、甲状腺ホルモンの役割についてはこれまで知られていなかった。

そこで申請者らは子宮内膜間質細胞にエストロゲン・プロゲステロンを作用させて脱落膜化をおこす細胞培養系のモデルを用いて、脱落膜化における甲状腺ホルモンの関与について検討した。その結果、甲状腺ホルモン投与は、単独では脱落膜化の誘導はおこさないものの、エストロゲン・プロゲステロンによって誘導される脱落膜化をさらに増強することが明らかになった。甲状腺ホルモン添加によりプロゲステロン受容体の発現量が増加しており、甲状腺ホルモンがプロゲステロンの作用を増強することにより脱落膜化を促進している可能性が示唆された。

本研究は甲状腺ホルモンが子宮内膜間質細胞の脱落膜化を促進することを初めて示したものであり、学位授与に値するものと考えられた。